

美浜原発2基 廃炉検討

老朽化 関電、年内に判断

関西電力が運転開始から40年以上経過している美浜原発1、2号機(福井県)について、廃炉の検討に入ることが5日分かった。今後、福井県や美浜町と具体的な協議を行い、年内にも判断する見通し。九州電力も運転開始から38年経過し

ている玄海原発1号機(佐賀県)について、廃炉か存続かの検討を進めている。政府は各電力会社に、老朽原発の整備計画を年内に提出するよう求める方針だ。(3面にクローズアップ) 関電幹部は、毎日新聞の取材に「美浜は老朽化して

おり、再稼働への道のりは険しい」と話した。美浜1、2号機は、それぞれ運転開始43年、42年を経過している。最長20年の運転延長が可能だが、その場合は特別点検を受けることになり、数千億円規模の追加費用が必要になる。ま

た、美浜1号機の出力は34万キロワット、2号機は50万キロワットで、費用対効果が小さい側面もある。 廃炉を決めた場合は、建物などの資産価値が減るため、約300億円の特別損失を計上する必要があると

みられる。決定が年度内なら2015年3月期決算で減損処理をする可能性が高い。関電は原発長期停止に伴う火力燃料費の増加で、最終(当期)赤字に陥っている。現在は4期連続の赤

字回避を目指しており、難しい経営判断を迫られそうだ。 【浜中慎哉】



福井県美浜町にある関西電力の原発。加圧水型軽水炉(PWR)で出力は1号機が34万キロワット、2号機が50万キロワット。それぞれ運転開始から40年を経過しており、老朽化対策が課題となっている。ほか

美浜原発1、2号機

延命採算合わず

美浜原発 廃炉検討

関西電力が、老朽化の進む美浜原発1、2号機（福井県）を廃炉にする検討に入った。運転開始から40年を迎える原発の延命には巨額のコストが見込まれ、運転を継続してもその費用を回収できる保証はないためだ。老朽化した原発を廃炉にし、原発縮小と安全重視の姿勢を示すことで、それ以外の原発の再稼働に弾みをつけたい政府や電力会社の思惑もにじむ。



残りの再稼働へ布石

「運転を延長しても、メリットがあるのかどうか、分からなくなった……」。関電幹部は、美浜1、2号機の廃炉を検討する理由をこう説明した。

「個別の原発の廃炉は電力会社が判断することだが、私としては円滑な廃炉の再稼働を進める方針を打ち出すとともに、原発依存度は「可能な限り低減させる」とした。しかし、再稼働の見通しが立っているのは九州電力川内原発1、2号機（鹿児島県）だけ。火

力発電の燃料コストが膨らみ、電力会社の経営は悪化している。北海道電力は7月、福島原発事故後で初めて、2度目の電気料金値上げ申請に踏み切った。再値上げが相次げば、景気回復に冷水を浴びせる。

電力会社は従来、老朽化した原発でも、できるだけ長く使う考えだった。原発は建設コストは巨額だが、燃料費などの運転費用は安いとされてきた。長期間運転して建設コストの回収が済めば、運転を続けるほど電力会社の利益も増える。しかし、東京電力福島第1原発事故で環境は一変した。まず、再稼働には原子力規制委員会の審査をクリアする必要がある。その対策に1基当たり1000億円規模がかかる。その上、2016年7月時点で運転開始から40年超の原発の運転を継続する場合、15年7月までに「特別点検」を行い規制委に申請する必要がある。再稼働の審査ですら電力会社の想定を超える厳しい。対策費は膨らみがち。設備改修などの投資負担は重く、延長で回収

「40年点検」合格困難

原発の廃炉の流れ



福島原発事故を受け、13年7月に施行された改正原子炉等規制法で原発の40年運転制限が設けられ、老朽原発の運転延長には厳しいハードルが課された。田中俊一・原子力規制委員長は「(20年の延長は)相当困難なこと」と述べ、電力会社の安易な運転延長をけん制する。運転延長申請には、原子炉容器本体の劣化を炉内から調べるなど、通常の定期検査では実施していない。運転延長か廃炉かが焦点

解体・撤去に30年 1基600億円

「特別点検」を申請前に済ませておかなければならぬ。炉内の検査には、全ての核燃料の取り出しや重き数十トンの炉内構造物の撤去など大がかりな作業が必要だ。さらに定期的に調べている機器でも、傷の有無を新たに複数の方法で調べてければならぬ。「特別点検」の検査項目は少なくとも定期検査の倍以上で、数カ月かかる。規制委幹部と

「特別点検」を申請前に済ませておかなければならぬ。炉内の検査には、全ての核燃料の取り出しや重き数十トンの炉内構造物の撤去など大がかりな作業が必要だ。さらに定期的に調べている機器でも、傷の有無を新たに複数の方法で調べてければならぬ。「特別点検」の検査項目は少なくとも定期検査の倍以上で、数カ月かかる。規制委幹部と

「特別点検」を申請前に済ませておかなければならぬ。炉内の検査には、全ての核燃料の取り出しや重き数十トンの炉内構造物の撤去など大がかりな作業が必要だ。さらに定期的に調べている機器でも、傷の有無を新たに複数の方法で調べてければならぬ。「特別点検」の検査項目は少なくとも定期検査の倍以上で、数カ月かかる。規制委幹部と

【酒造唯】 判断する。甘利氏は「首